

東桜コンピテンシー2019 「①ビジョン」について ～その3～

①「ビジョン」

数年～数十年単位の中長期的な目標として、望ましい社会や理想とする自分の姿を思い描く力。

さまざまな人の生き方にふれることで影響を受けることがあります。

2019年12月4日、アフガニスタンで、長年、人道支援と復興に携わってきた医師の中村哲さん（73）が銃撃され亡くなった事件は私たちに衝撃を与えました。「100の診療所よりも1本の用水路を」という言葉に象徴されるように、中村さんは医師としてだけでなく、アフガニスタンの自立へ向けての支援に取り組まれました。他国の支援の在り方には、緊急避難的な食糧支援などがありますが、農業の振興などのように、その国の自立を支援することも大切なことです。

アフガニスタンの砂漠化が進み、多くの難民が発生する中、中村さんは飲料水と食料の確保の大切さを感じ、井戸を掘って清潔な飲料水を確保したり、農業用水の確保のため用水路を造ったりしました。

用水路は、高コストで高度な土木技術を活用するのではなく、地元の人々がメンテナンスできる低コストで実現可能な技術を用いたそうです。例えば、江戸時代、日本に数百か所あったとされる「石張り式斜め堰」（今も福岡県朝倉市に「山田堰」として現存）などの技術を活用されたといった話を聞くと、日本人ならではの貢献をされたのだと改めてその取組の素晴らしさを感じます。

中村さんがどのようなビジョンを持ち、どのようなやりがいを感じながら、アフガニスタンの支援に携わっておられたのか、まだ触れる機会がなかった人は一度触れてみてはどうでしょうか。

SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」には、「安全な水とトイレを世界中に」と「飢餓をゼロに」があります。中村さんの取組は、正にSDGsの目標達成へ向けた取組と言えるでしょう。

以下に、国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所のHPの内容を掲載します。

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

水不足の影響は、全世界の人の40%に及んでいますが、この驚くべき数字は、気候変動の影響によって地球の気温が上昇するにつれ、さらに大きくなることが予測されています。1990年以来、新たに21億人が改善された水と衛生にアクセスできるようになりましたが、安全な飲み水の供給量減少は、世界中で深刻な問題となっています。



2011年には、41か国が水ストレスを経験しましたが、うち10か国では、再生可能な淡水が枯渇寸前となり、従来と異なる水源に頼らざるを得ない状態となっています。干ばつの多発や砂漠化は、既にこうした動向に拍車をかけています。2050年までに、4人に1人以上が慢性的な水不足の影響を受ける可能性が高いと見られています。

2030年までに、安全で手ごろな飲み水への普遍的なアクセスを確保するためには、インフラの整備に投資し、衛生施設を提供するとともに、あらゆるレベルで衛生状態の改善を促すことが必要です。水不足を緩和するためには、森林や山地、湿原、河川など、水関連の生態系の保護と回復が欠かせません。水の利用効率の改善を働きかけ、開発途上地域の水処理技術を支援するために、一層の国際協力も必要とされています。

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



過去20年間の経済の急成長と農業生産の拡大により、栄養不良の人の割合はほぼ半減しました。かつては飢饉や飢餓に苦しんだ多くの開発途上国は、社会的最弱層の栄養ニーズを満たせるようになってきました。中央アジア、東アジア、ラテンアメリカ・カリブの各地域は、極度の飢餓撲滅に向けて大きな進捗を遂げています。

これらはいずれも、ミレニアム開発目標（MDGs）で定められた目標達成に向けた重要な成果です。しかし残念ながら、極度の貧困と栄養不良は依然として、多くの国々の発展を妨げる大きな障害となっています。2014年の時点で、主として環境破壊や干ばつ、生物多様性の損失の直接的結果として、7億9500万人が慢性的な栄養不良に陥っていると見られています。また、9000万人を超える5歳未満児が低体重です。そしてアフリカでは、今でも4人に1人が空腹のまま眠りについていました。

持続可能な開発目標（SDGs）は、2030年までにあらゆる形態の飢餓と栄養不良に終止符を打ち、子どもや社会的弱者を始めとするすべての人が1年を通じて、栄養のある食料を十分に得られるようにすることを狙いとしています。そのためには、小規模農家の生活と能力を向上させ、土地や技術、市場への平等なアクセスを与えることにより、持続可能な農業規範を推進しなければなりません。また、国際協力によってインフラと技術への投資を確保し、農業生産性を改善する必要があります。私たちは他のSDGsの目標も同時に達成することで、2030年までに飢餓に終止符を打つことができるのです。

令和2年（2020年）3月